

新年のご挨拶



日本脊椎脊髄病学会 理事長 松山幸弘

新年あけましておめでとうございます。

令和4年も1月を迎え、令和元年12月の新型コロナウイルス感染症の発生から3年となります。新型コロナウイルス感染症、特に最新の変異株オミクロンに対する対応は十分機能し、大きなクラスター発生もなく現在診療体制も落ち着いております。また全国各地で感染症対応にご尽力されている全ての医療者の皆様に、心より敬意を表したいと思います。

日本脊椎脊髄病学会レジストリー（JSSR-DB）登録へのお願い

日本脊椎脊髄病学会が主体となり、JOANR レジストリーシステムに連結した脊椎脊髄手術関連の詳細な症例データベースシステムを構築し、令和3年11月から合併症調査が運用する運びとなりました。

今回の合併症調査は11月1日から11月30日までの1ヶ月間に行われた脊椎脊髄手術の合併症調査です。このデータベースに登録された医療情報を体系的に把握し、脊椎・脊髄疾患の医療の質向上に資する分析を行うことで、国民の皆様への最善の医療の提供、適正な医療水準の維持、医療経済の最適化に大きな効果をもたらすことが期待されます。

11月から1ヶ月間に行われた手術合併症調査結果から、入力上での問題点などを明らかにし、できる限りユーザーフレンドリーなデータベースに改善いたします。本データベースは今後本学会の核となるプロジェクトであり、令和4年4月からは本格的に脊椎脊髄手術、全症例登録が可能となるように構成し、会員の皆様方に入力をお願いする予定です。私たちが力を合わせてデータベース入力を継続、充実させることで、我が国の脊椎脊髄手術の基盤となるエビデンスを構築することが可能となると確信しております。この結果こそが最善の医療の提供、適正な医療水準の維持、医療経済の最適化に大きな効果をもたらし、結果として国民の皆様だけではなく、我々医療人にとっても得られる恩恵は多大なものと考えます。是非、日本脊椎脊髄病学会レジストリー（JSSR-DB）へのご参加をお願いしたいと思います。

専門医試験の受験のお願い

脊椎脊髄外科専門医資格を取得するには、専門医試験を受ける必要があります。まだ受けられていない先生方は、忘れずに専門医試験を受けていただけると幸いです。

JSSR ホームページ、マイページの充実とニュースレターによる情報共有

会員の皆様、マイページはご覧になりましたでしょうか？是非一度ご覧ください。

素晴らしく充実した内容になっていると思います。専門医、指導医資格、学会参加記録など情報はかなり充実したものになっております。会員の先生方にとってより便利で、使い勝手の良いホームページ、マイページを作成して参ります。

この会員情報充実を図ることによって、ニュースレターでの最新情報共有、学会機関雑誌である『SSRR』、『JSR』の最新情報などをタイムリーに先生方にお届けいたします。ご意見等ございましたらぜひお寄せください。

最後に『変化を恐れず新しい潮流を』

理事長就任時にお伝えいたしました、変わるリスクより変わらないリスクの方が大きいと肝に銘じ、常に動き、変化のある学会にするべきだと考えています。特に現在のようなコロナ禍で、学会活動や委員会活動形態が変わり、また日本の経済自体も変革を大きく求められています。コロナ災害と言ってよい窮地にある時期こそ学会のあり方や多施設研究のあり方、新技術の開発、仕様策定などじっくり考え、そして新たに変革をするべき時と思います。学会員、特に理事や評議員の先生方には先陣を切って変わり続けてほしいと願っています。

実際に各委員会活動は活発化し、ウェブ会議を効率的に利用して変化してきています。大変良い傾向と考えます。これが目指すべきチャレンジ精神旺盛な JSSR だと思います。質の高さに裏打ちされた最新の医療を患者さんに提供するためには、我々自体が進化してゆかねばなりません。我々執行部も精一杯努力いたしますので、会員の皆様がたのご理解とご支援を宜しく願います。